

## Ⅱ－（１）安心して暮らせるまちづくり その２

- ◎健康で安心して暮らせるまちづくり
- ◎持続可能な公共交通・生活交通

### これまでの取組み状況

#### 安全・便利な公共交通体系の構築

##### <公共交通の利便性・拠点性向上>

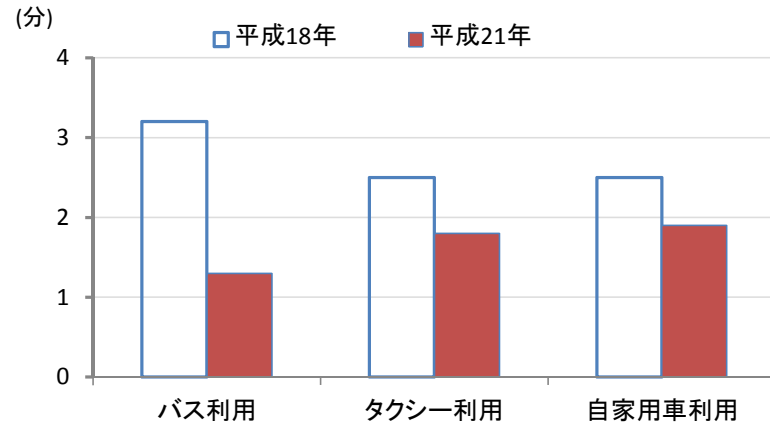
ノンステップバスやバスICカードの導入補助など利用環境の強化を図ったほか、JR越後線の増便実験とあわせて駅でのパークアンドライドの取組みを実施。  
 鉄道在来線の高架化や新潟駅周辺の道路及び広場の整備により、都心機能の向上と陸の玄関口にふさわしい市街地の形成を図るとともに、広域公共交通の拠点性を向上。

##### <持続可能な公共交通体系の構築>

平成27年夏前に開業予定のBRTとあわせて、バス路線の再編を一体的に行う新バスシステムの構築により、持続可能な公共交通体系の構築に向けた取組みを実施。

新潟駅南口広場から改札口への移動時間

出典：新潟駅周辺整備事務所



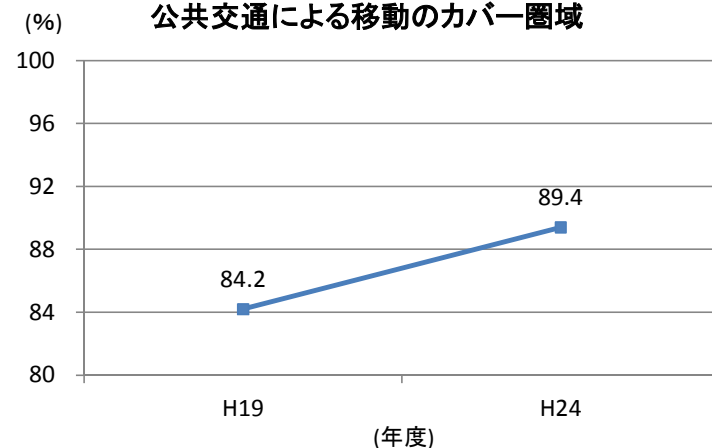
#### 身近で快適な交通の確保

##### <生活交通確保への支援>

不採算バス路線への補助や区バスの運行、住民バスの支援を行ってきたほか、駅前広場やバス停周辺の整備、パークアンドライド駐車場の整備などを実施。  
 生活道路は歩行空間の確保のみならず、自転車利用を促進するための環境整備。

公共交通による移動のカバー圏域

出典：都市交通政策課

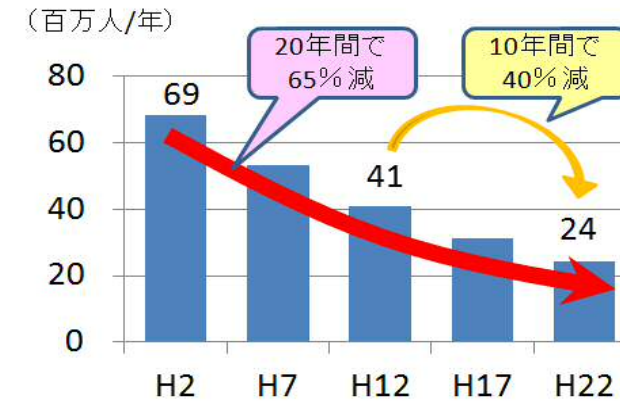


バス停から300m、鉄道駅から500m圏域における居住人口の割合。

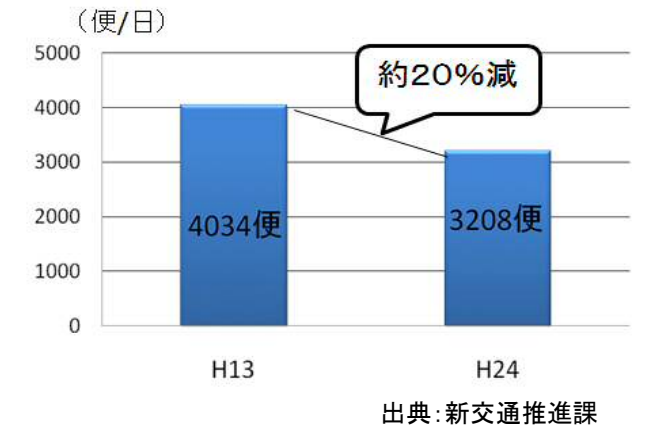
### 本市を取り巻く状況

#### バス利用者数の推移及び運行便数の推移

##### バス利用者数の推移



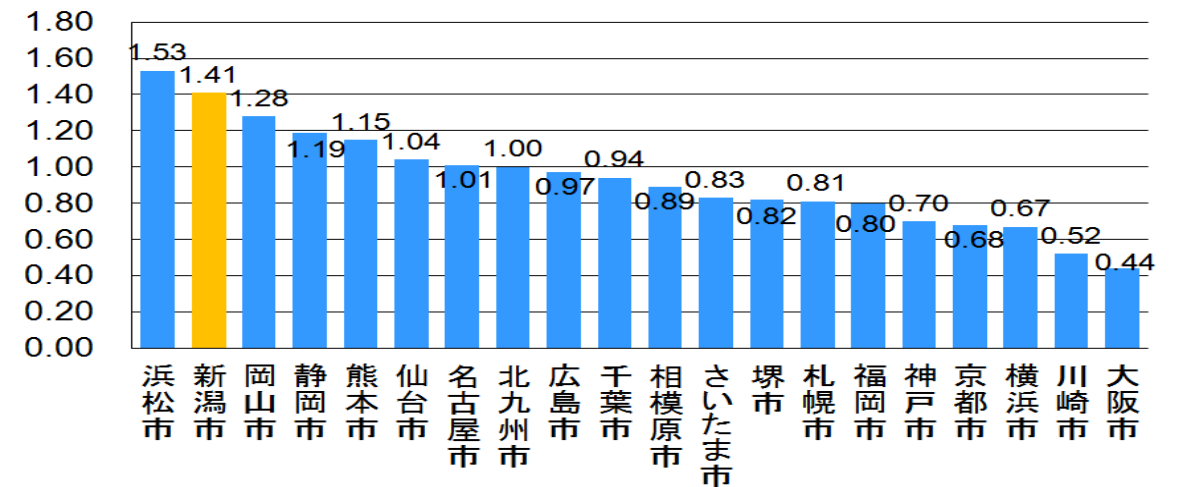
##### 運行便数の推移



#### 世帯当たりの乗用車保有台数

(単位：台)

出典：都市データバック(2013)



### 取り組むべき課題と今後の方向性

#### ◎「まちなか活性化」、「公共交通」、「健幸都市づくり」が連動したまちづくり

▷市民が徒歩や公共交通でまちなかに買い物に出かけられる環境をつくり、商店街などのまちなか活性化、さらには健幸都市づくり（SWC）に連動し、ひいては健康寿命を延伸していくというまちづくりを進めていくことが必要。

#### ◎過度なマイカー依存からの脱却によるCO2の削減

▷超高齢社会やまちなか活性化、環境問題に対応するために、これまでの自動車中心のまちづくりから歩行者・自転車・公共交通を重視したまちづくりへの転換を進めることが必要。